

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成18年3月23日(2006.3.23)

【公表番号】特表2005-530524(P2005-530524A)

【公表日】平成17年10月13日(2005.10.13)

【年通号数】公開・登録公報2005-040

【出願番号】特願2003-577841(P2003-577841)

【国際特許分類】

A 6 1 L 9/01 (2006.01)

A 6 1 K 8/00 (2006.01)

A 6 1 Q 13/00 (2006.01)

B 0 1 D 53/28 (2006.01)

B 0 1 F 17/42 (2006.01)

B 0 1 F 17/52 (2006.01)

B 0 1 J 13/04 (2006.01)

C 1 1 B 9/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 L 9/01 X

A 6 1 L 9/01 W

A 6 1 L 9/01 Y

A 6 1 K 7/46 A

B 0 1 D 53/28

B 0 1 F 17/42

B 0 1 F 17/52

B 0 1 J 13/02 A

C 1 1 B 9/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成18年1月27日(2006.1.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

乾燥エマルジョンの粒子からなる芳香剤組成物であって、前記粒子が、ポリマー界面活性材料のマトリックスからなり、この中に芳香含有油の液体小滴が分散されている、前記芳香剤組成物。

【請求項2】

ポリマー界面活性剤が、以下のもの

I) ポリビニル化合物、例えばポリ(酢酸ビニル)、ポリ(ビニルアルコール)またはポリ(ビニルピロリドン)；ポリカルボン酸、例えばポリ(アクリル酸)およびポリ(メタクリル酸)；ポリスルホン酸、例えばポリ(スチレンスルホン酸)；ポリエステル、例えばグリコールポリアクリレート；ポリアミド、例えばポリ(アクリルアミド)；ポリウレタン、例えばイオン性基、例えばカルボン酸、スルホン酸もしくは第三アミンを含むポリウレタン；または非イオン性親水性基、例えばエチレンオキシドを含むポリウレタン；ポリ(エチレンオキシド)、ポリ(プロピレンオキシド)およびポリアルキレングリコール誘導体から選択されたホモポリマー；

I I) 重縮合物、例えばエトキシ化フェノール、ホルムアルデヒド樹脂、スルホン化芳香族ホルムアルデヒド樹脂、尿素またはメラミン、ホルムアルデヒド化合物、ポリアミド、ポリアミンおよびエピクロヒドリン樹脂；

I I I) スチレンコポリマー、例えばスチレンーアクリル酸ポリマーまたはスチレンーエチレンオキシドポリマー、ポリビニルおよびマレイン酸化合物のコポリマー、例えばスチレン、無水マレイン酸ポリマーまたは酢酸ビニル、マレイン酸エステルポリマー、ポリビニルーポリアルキレンコポリマー、例えば酢酸ビニルーエチレンポリマー、エチレンーアクリル酸ーアクリル酸エステルポリマーまたはエチレンーアクリル酸ーアクリロニトリルポリマー、ビニルコポリマー、例えば酢酸ビニルポリマー、アクリル酸ーアクリロニトリルポリマー、アクリル酸ーアクリルアミドポリマーから選択された、Aが比較的水溶性が高く、または水膨潤性が高い部分であり、Bが比較的水溶性が低く、または水膨潤性が低い部分である、A Bコポリマー；

I V) 「A」が、水溶性または水膨潤性部分、例えばポリ（エチレンオキシド）、ポリ（ビニルアルコール）、ポリ（アクリルアミド）、ポリ（アクリル酸）、ポリ（ビニルピロリドン）またはポリ（カプロラクトン）であり；および「B」が、比較的水溶性が低い、またはいくらか水に難溶である部分、例えばポリ（プロピレンオキシド）、ポリ（酢酸ビニル）、ポリ（ビニルブチラル）、ポリ（ラウリルメタクリレート）、ポリスチレン、ポリ（ヒドロキシステアリン酸）、ポリシロキサンであるポリマーから選択された、A B Aブロックコポリマー、

V) 「A」が、水溶性または水膨潤性部分、例えばビニルアルコール、酢酸ビニル、エチレンオキシド、プロピレンオキシド、ビニルスルホネート、アクリル酸およびビニルアミンから選択され、「B」が、ビニルポリマー鎖またはシロキサン鎖から選択された、B (A)_n グラフトまたは楕形ポリマー、

V I) 天然のポリマー乳化剤、例えばセルロース誘導体、例えばカルボキシメチルセルロース、ヒドロキシプロピルメチルセルロース、メチルセルロースおよび他の誘導体からなる群から選択された、請求項1に記載の芳香剤組成物。

【請求項3】

芳香物質をカプセル封入する方法であって、芳香物質を含む油相を、本質的に水および上記ポリマー界面活性剤からなる連続相中に分散させるかまたは乳化させる工程と、その後エマルジョンを噴霧乾燥して、水を除去する工程とを含む、前記方法。